

Sei@Wonderland

みつばちビニーと バラのみつ



ビニーは みつばちの おんなのこ。
はちみつ づくりが だいすきです。
おはなばたけに ぶん ぶん ぶん。
みつを あつめに やってきました。



れんげのはなに てんとうむしの ティムが いました。
かふんだんごを むしゃむしゃ たべて います。
「やあ、ビニー。きみも いっしょに たべるかい？」
「ありがとう ティム。いただくわ」



ティムは ビニーに いいました。

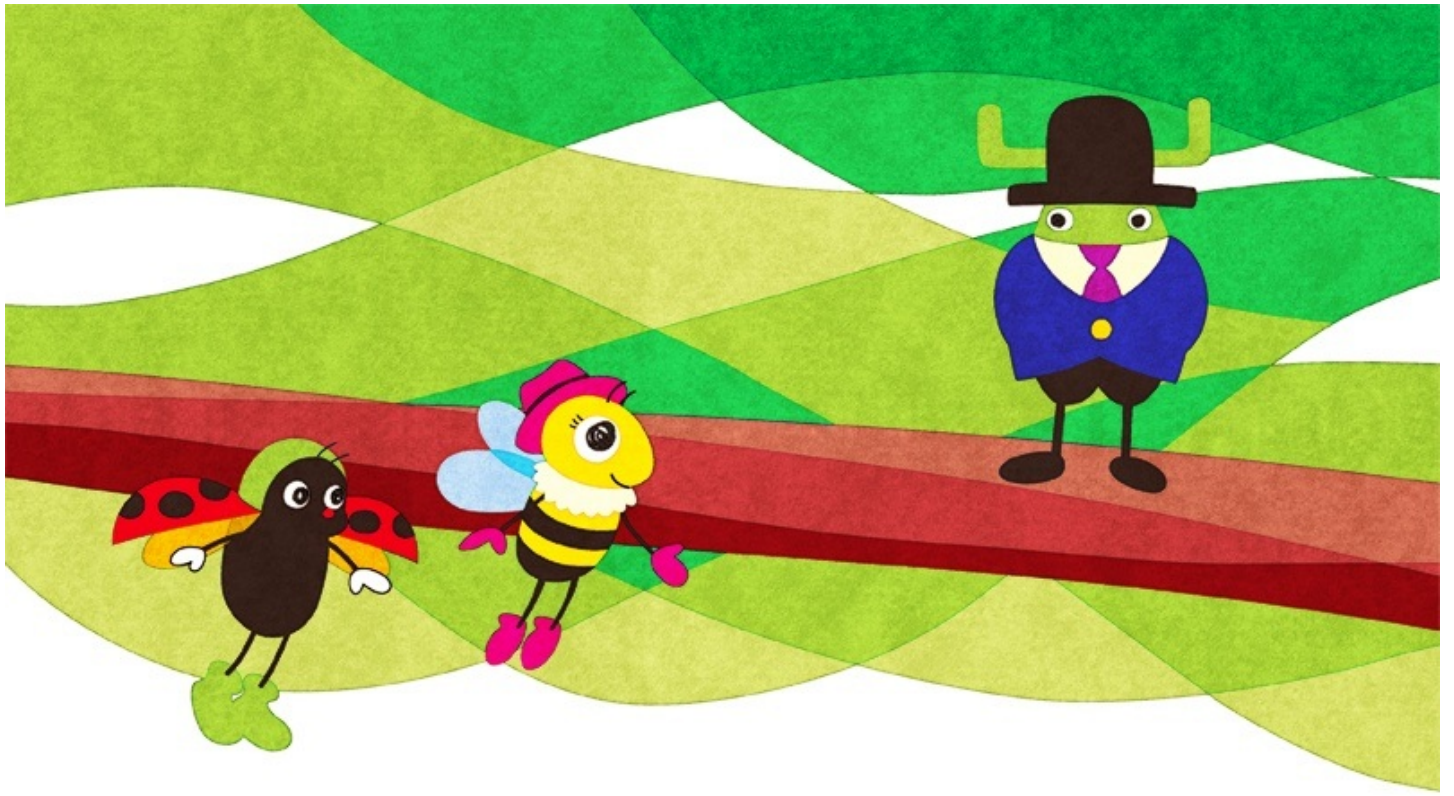
「もりの むこうに みつの とれる バラが あるんだって」

すると ビニーは すぐに いきたく になりました。

バラの みつは あまり とれないからです。

「ねえ ティム。いっしょに いってみましょうよ」





ビニーは ティムを さそって もりに やってきました。

そこで ハナムグリの おじさんに あいました。

「ハナムグリさん バラは どこに さいているの？」

「このもりの さきの さきの そのまた さきさ」

しばらく とぶと ティムが ハンモックを みつけました。

「わあ、きもちよさそう！」

ティムは すぐに ごろんと ねころびました。

すると そのまま くっついて しまったのです。

「ティム たいへん！それは くものすよ！」



そこへ おおきなクモが ひたひたと やってきました。

「こいつは うまそうな ごちそうだ」

ビニーは あわてて クモに たのみました。

「わたしが バラのみつを もってくるから たすけてあげて」

「よ～し。では おまえの かえりを まってやろう」





ふかい もりのなかを ビニーは ひとりで とびつづけました。
もりは どこまでも どこまでも つづいています。
「バラのはなは どこに あるのかしら」

やがて もりをぬけると バラのさく たにが ありました。

「わあ、なんて すてきな ところでしょう」

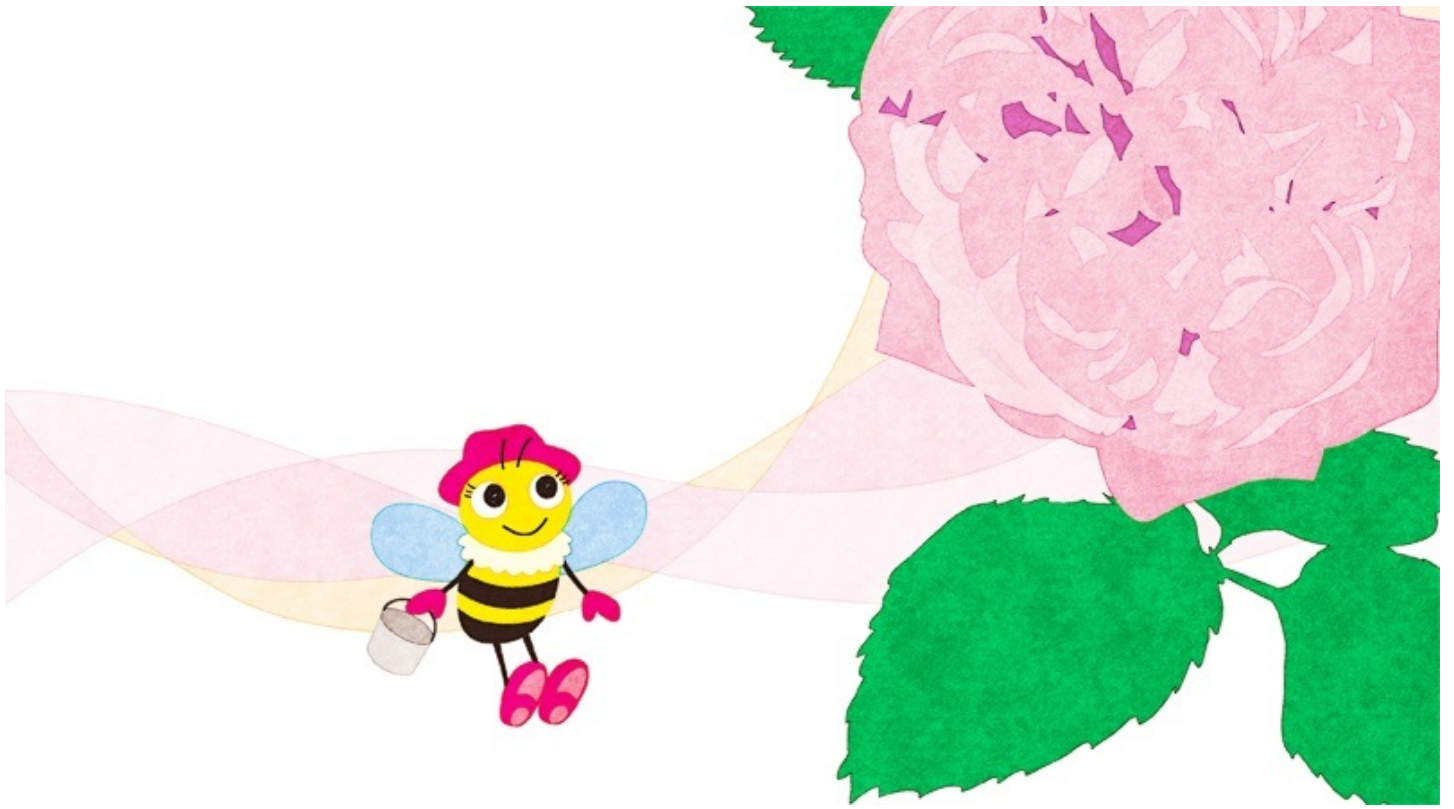
すると わいわい にぎやかな こえが きこえます。

「むこうで なにか やっているんだわ」



そばにいくと むしたちが パーティーを していました。
チョウが おどり コオロギが アコーディオンを ひいています。
「コオロギさん、これは なんの パーティーですか？」
「バラが いっぱい さいたので おいわいを しているのさ」
「では すこし みつを もらっても いいかしら？」





コオロギは アコーディオンを ぽろんと ひいて いました。
「じゃあ ぼくらにも はちみつを つくって おくれよ」
「わかったわ。じゃあ はじめるわね」
そうって ビニーは せっせと みつを あつめました。

ビニーの はちみつに みんな おおろこび。
チョウが ビニーを ダンスに さそいました。
「さあ、いっしょに おどりましょう」
たーり らりらり たり らった
たーり らりらり たり らん たん



パーティーが おわると ビニーは もりへ いそぎます。

「クモさん やくそくどおり みつを もってきたわ」

クモは みつを うけとると にやりと わらいました。

「こいつを ぬって てんとうむしを たべて やるよ」

「それじゃあ やくそくが ちがうわ！」



「だれか たすけて ください！」
ビニーの こえを きいて カブトムシが とんできました。
「いったい どうしたんだい？」
「クモさんが ウソをついて みつを とったんです！」
すると クモは さっさと にげだしました。



ぶちぶちぶちっと カブトムシは クモのすを きりました。
あわてた クモは つるんと みつを おとして しまいます。
それを ビニーが すばやく ひろいました。
ティムは なきながら よろこびました。
「たすかったよ ビニー！」



「ありがとう、カブトムシさん」
ビニーは おれいに みつを あげました。
そして ティムにも みつを あげました。
「これを たべて げんきに なって」
「ありがとう。いきていて よかったよ」



それから ビニーは クモのもとへ やってきました。

「もう ウソは つかないって やくそく できる？」

「わたしが わるかった。やくそく するよ」

クモが あやまると ビニーは ゆるしました。

そして クモにも みつを あげました。



この本の文章及びイラストの著作権は、すべて作者に帰属します。

Sei@wonderland

<http://www.seiawonderland.net>